

NO **2049** レジメン名 **D-Ld療法【3～6コース用】**

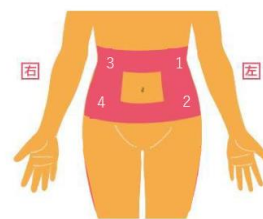
病棟 患者番号 氏名	癌種	ステージ	PS	クール数	指示医師名
				～	
	年齢	身長	体重	体表面積	GFR(血清クレアチニン値)
	歳	cm	kg	m <sup>2</sup>	ml/min (mg/dl)

【適応がん種】多発性骨髄腫 ダラツムマブ レナリドミド デキサメタゾン	CCr補正	GOT補正	T-Bil補正	【病状】 1 全て説明している 2 病名は説明しているが、詳しい病状については説明していない 3 未告知である 【治療】 1 抗癌剤による治療・予防と説明 2 抗癌剤とは言わず治療薬と説明 3 抗癌剤とは言わず予防薬と説明 4 薬に関しては説明していない 平成20年7月1日 改訂
1・ダラキューロ 1800 mg/body DAY1. 15 2・レブラミド 25 mg/body DAY1～21	-	-	-	
28日(4週)1クール	WBC基準	HGB基準	PLT基準	

NO	薬品1	規格	本数	薬品2(規格本数)	時間・投与法
①	カロナール(200)4錠,レナデックス(4)5錠、レスタミン(10)5錠 内服 (前投与 オーダー不要)				
②	ダラキューロ (1800)mg	1800mg	1本	15mLを3～5分かけて皮下注	
③	レナデックス(4)5錠 内服 (翌日内服分 オーダー不要)				朝食後内服
④	レナデックス(4)10錠 内服 (別途処方が必要)				朝食後内服

【ダラキューロ投与時の注意】

- 臍から左右7.5cmの腹部皮下に投与(右図参照)
- バイアルは投与30分以上前に冷蔵庫から取り出す
- 調整後、室温および室内光下で保存する場合は4時間を上限とする
- 注射針は23～25G又は翼状針で投与する



- ダラキューロ投与中は間接クームス試験が偽陽性になる可能性がある(ダラキューロが赤血球上のCD38と結合するため)
- ダラキューロ投与前に不規則抗体のスクリーニングを含めた一般的な輸血前検査が望ましい
- ダラキューロによる間接クームス試験の干渉を回避するためには、ジチオスレート(DTT)処理を考慮すること

月日	指示	指示医	受け	監査	払い	払監	調製	調監	前確	実施
	①② DAY1									
	③ DAY2									
	④ DAY8									
	①② DAY15									
	③ DAY16									
	④ DAY22									

202108作成